

AI による概要

警視庁の発表によると、速度超過による交通事故の死亡事故率は、速度超過がない場合に比べて高くなる傾向があります。特に、危険認知速度が上がるにつれて死亡事故率は急激に上昇します。例えば、危険認知速度が 20km/h 以下の場合には死亡事故率が 0.90%であるのに対し、50km/h では 14.90%と、約 16 倍に跳ね上がります。また、負傷事故では 40km/h 以下のケースが約 81%を占めるのに対し、死亡事故では 40km/h を超えるケースが約 75%と、死亡事故はより高い速度で発生する傾向があります。

速度別死亡事故率の例（交通事故総合分析センター調べ）:

- 危険認知速度: ~20km/h 死亡事故率: 0.90%
- 危険認知速度: ~30km/h 死亡事故率: 1.40%
- 危険認知速度: ~40km/h 死亡事故率: 5.10%
- 危険認知速度: ~50km/h 死亡事故率: 14.90%

速度超過と死亡事故の関係:

- 速度超過は、事故の衝撃力を高め、死亡事故につながる可能性を大きくします。
- [SOMPOリスクマネジメントによると](#)、規制速度を超過した交通事故の死亡事故率は、超過しない場合の約 9.2 倍に増加します。
- 事故の衝撃力は、スピードの 2 乗に比例して大きくなります。

その他:

- 交通事故死者数は減少傾向にあるものの、依然として多くの尊い命が失われています。
- 都道府県別では、東京が最多の死者数を記録しています。
- 愛知県は、交通事故死者数の多い都道府県の一つとして知られています。